

平成27年生駒市教育委員会第4回臨時会会議録

1 日 時 平成27年8月10日(月) 午前9時30分～午前11時40分

2 場 所 生駒市役所 401・402会議室

3 審査事項

(1) 平成28年度使用中学校教科用図書採択について

4 出席委員

教育長	中田好昭	委員(教育長職務代理者)	山本吉延
委員	村田浩子	委員	飯島敏文

5 事務局職員出席者

教育総務部長	峯島 妙	教育指導課長	吉村 茂
教育総務課課長補佐	藤本清夫	教育指導課課長補佐	吉川祐一
教育指導課指導主事	前田伸行	教育総務課(書記)	松井 恵

6 傍聴者 29名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 会期及び会議時間の決定

○日程第2 平成28年度使用中学校教科用図書採択について

・平成28年度使用中学校教科用図書採択について、中田教育長から説明

【 国語 】

中田教育長：国語の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版の5社である。意見をいただきたい。

山本委員：全体的に、各社とも題材の配列や選択などバランスがとれていてどれも良い。また、題材の目標の示し方や言語活動の進め方なども、各社とも様々に工夫されている。

読むことの学習に3社が古典の教材を取り入れている。中でも光村図書出版は、各学年に「平家物語」などの古典の教材を複数取り入れるなど充実している印象を受けた。

最近の傾向として、各社ともメディアリテラシーについて考える題材を設定するなどして、情報教育と関連した内容を取り入れている。中でも三省堂は、「情報探しのヒント」などを掲載し、著作権問題や引用の仕方など具体的な活用方法を示している。

こうしたことから、三省堂と光村図書出版が良いと考える。

村田委員：光村図書出版が良い。

生駒市では、学力調査の結果より中学生の読書時間が短いことから、学校図書館司書を全校に配置し読書活動に力を入れており、これは教科書を採択する際の重要なポイントと考える。

読書案内を見ると、三省堂、教育出版、光村図書出版は単元末や巻末の図書紹介が比較的充実している。特に光村図書出版は、単元に関連した本を「科学」や「近代文学」など分野別に本の表紙と概要で紹介していて身近な感じを受け、読んでみたい気持ちを喚起させるようになっている。また、調査研究報告書にもある通り、物語や小説などの文学的な文章に重厚な作品が多い。さらに、巻末には文学的な文章を読むための基本的な学習用語等を掲載し、読み深められるように配慮している。

飯島委員：総合的に見て、教育出版と光村図書出版が良い。

レイアウトでいうと、教育出版は教科書の文字がやや大きく余白の感覚にも余裕があり見やすい。その分、県の選定資料から分かるように、ページ数は少し多くなっている。

光村図書出版は、一単元に数時間かかる国語の学習の中で、それほど時間をかけずに取り組むことができる「練習」というページを設けていて、授業の運営に緩急をつけたバリエーションを持たせるためには使いやすいのではないか。また、情報コラムや読書コラムなどの発展学習が分かりやすい。

各社とも、表現力については非常に力を入れて書かれているが、特に学校図書のパブリックスピーキングの学習について興味深く感じた。通常の教師対生徒のコミュニケーションだけではなく、社会生活の中で実際に出てくる自己PRやコミュニケーションを授業に取り入れようとしているところが良い。フィールドノートの記録でも、「事実」と「文章」を比較して読む構成となっており、メディアリテラシーを育てるために有効である。

中田教育長：3人の委員の意見では、三省堂、光村図書出版、教育出版が挙げられ、その中でも光村図書出版が良いという意見が共通しているが、他に何か意見はあるか。

山本委員：どの教科書もそれぞれ大事にしている内容があり、それが特長である訳だが、採択に当たっては生駒市の子どもたちにとって何を大切にするかで判断する必要がある。特に読書についての村田委員の意見や言語活動についての意見から、光村図書出版が良いと考える。

飯島委員：現行の学習指導要領では、「伝統的な言語文化」が大切にされている。各社とも配慮されているが、総体的には光村図書出版が適切であると考ええる。

中田教育長：それでは、国語では、光村図書出版を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【光村図書出版を採択】

【書写】

中田教育長：書写の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版の5社である。意見をいただきたい。

山本委員：学校図書と教育出版が良いと考える。

各社とも、用具の使い方や姿勢を示しているが、これについては東京書籍、三省堂、教育出版が充実している。また、学校図書は「懸腕法」など5種の筆の持ち方を紹介しているのが特長である。

書写を身近なものとするためには、その学習が日常生活につながるものにすることが大切だが、各社ともに原稿用紙やレポート、年賀状、願書などを題材に取り上げて構成しているのは良い。

毛筆の教材における楷書と行書のページ数について、3社の教科書で行書に比べて楷書がずいぶん少ないことがやや気になる。やはり教育出版

と学校図書のようにバランスよく扱う方が柔軟に対応できて良いのではないか。

飯島委員：総合的に学校図書が良い。

まず学習順として身の回りの文字からスタートしているのが良い。また、バリエーションとして、発展課題に「篆刻」や「臨書」など生徒が卒業後も興味を持って取り組めるような教材が多く設けられている。さらに、レイアウトに関わることだが、原寸大の手本が他社より多い。県の選定資料によると、学校図書は他社に比べ原寸大の手本の題材を2倍以上採用している。生徒は鉛筆で書くことが多いが、鉛筆の筆跡も比較的大きめで、濃淡が非常に分かりやすい形で掲載されている。

村田委員：学校図書と教育出版が良い。

飯島委員の意見に同じく、学校図書の原寸大の手本の数が多いのは大切である。さらに、選定懇話会の意見にもある通り、毛筆の学習時に教科書を開く際、原寸大の手本は見開きを縦にして置くことになるので机上で広げやすい。

どの教科書も、自己評価欄を設けるなど活動の振り返りを取り入れている。加えて、東京書籍、教育出版、光村図書出版はチェック欄を設けている。

学校図書は、臨書や篆刻など興味深い多くの発展教材を掲載している。教育出版は、古典文学や現代文を硬筆教材に取り上げて、国語の学習と関連を図る工夫をしている。また、硬筆と毛筆を合わせたページ数が充実している。

中田教育長：3人の意見では、学校図書と教育出版に絞られているがいかがか。

村田委員：先ほども言ったが、狭い机の上で効率的に使える手本は、毎回のことなので大切と考える。

また、パソコンなどの普及で文字を書く機会が減り、毛筆を使うのは学校でのみという子も多い。それだけに、抵抗なく学習に取り組めるようにしたい。

以上の点から、学校図書が良いのではないか。

飯島委員：朱と墨の色と濃淡で毛筆の筆の運びを表している工夫は、どちらの教科書にも取り入れられているが、その中で、3人とも学校図書を挙げているので、学校図書で良いと考える。

中田教育長：それでは、書写では、学校図書を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【学校図書を採択】

【 社会（地理的分野） 】

中田教育長：社会（地理的分野）の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、教育

出版、帝国書院、日本文教出版の4社である。意見をいただきたい。

飯島委員：全体的に各社とも必要な資料を見やすく工夫している。また、どこも教科書の中で災害の種類やその説明だけに終わらず、防災の大切さについても言及している。

帝国書院の字がはっきりしていて見やすい。写真に文字を入れるときの工夫もされている。

山本委員：資料活用能力が注目されている中で、東京書籍か帝国書院の教科書が良いと感じた。東京書籍は教材・資料数が他社に比べると多いのが特長である。帝国書院は統計資料が充実しており、グラフや図表を使ってその地域のことを考えさせるのに適していると感じた。さらに付け加えると、教育出版では、身近な地域調査「地域をながめて」で地形図を読み取る地理的技能の習得方法を示していることも良い。

村田委員：東京書籍か帝国書院の教科書が良い。各教科書が取り上げている世界の諸地域は、州全体として見る視点に重きを置き、その中で特色的なことを説明している点は各社とも同じであるが、東京書籍と帝国書院の2社は地図帳を使った作業を取り入れた学習内容が充実している。

東京書籍、帝国書院、日本文教出版は、世界の6つの地域で各州の冒頭に地形を概観できる地図と気候の特色を表した雨温図を掲載している。その中で、章の始めにたくさんの写真を掲載し州のイメージをつかみやすくしているのは東京書籍と帝国書院である。

飯島委員：総合的に見て帝国書院が良いと考える。

帝国書院は、学習内容の振り返りや習得事項を活用する問いかけとして「やってみよう」を効果的に取り入れている。また、「確認しよう」や「説明しよう」を設け、学習した内容の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力の育成を目指している。身につけさせたい能力も分かりやすく示されているので、授業者にとっても使いやすいのではないかと。

帝国書院、東京書籍は地元の住民をイラストで登場させ、生活の様子をイメージさせているところは面白い。

また、帝国書院は写真が大きく、京都の二年坂の電線地中化前後の写真比較など、地域の様子が分かりやすい。全体的に写真の角度や視点、文字情報の付加など、効果的である。

山本委員：2人の意見を聞くと、帝国書院が良いのではないかと。帝国書院は日本の諸地域の章で、地域の始まりも振り返りも見開きの製本になっているので見やすい。また、「技能をみがく」のページが豊富にあり、読図や作図など技能習得できるように配慮されている。さらに、「日本の諸地域」の近畿地方で古都奈良に詳しく触れていることも良い。

中田教育長：それでは、社会（地理的分野）では、帝国書院を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【帝国書院を採択】

【 社会（歴史的分野） 】

中田教育長：社会（歴史的分野）の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社、学び舎の8社である。

歴史教科書の記述については様々な意見があるが、すべての教科書が検定をクリアしているという認識のもとで検討を行いたい。

それでは意見をいただきたい。

山本委員：各社とも、学習課題を疑問文の形で示すなど学習目標をつかみやすくする工夫や、学習内容に関する設問を設けるなど定着を図る工夫が見られた。

東京書籍、日本文教出版、教育出版の3社は、見開き2ページに年表を示し、学習している内容が常に全体の流れの中で把握できるように工夫されているのが良い。歴史学習においては、流れを整理することは重要なことであり、年表は重要な学習資料となる。

懇話会の意見にも出ていたが、学習を深める工夫において、各社とも資料やコラムを数多く取り入れているが、帝国書院はその数が豊富だといえる。東京書籍は、ロゴマークを効果的に使い、巻末に用語解説を設けるなど学習活動を援助する工夫が細かくなされている点が良い。

以上のことから東京書籍が良いと考える。

飯島委員：生徒が分かりやすいと感じることが重要である。歴史は難しいという思いを持たせないための工夫としては、日本文教出版は各章の始めに大きな図版や地図を載せていて、時代の特色や学習のねらいがつかみやすくなっている。

また、身近なテーマから学習を深め、発展的学習に役立てるような工夫が重要であるが、日本文教出版では「大阪の空襲」や「災害の歴史に学ぶ」といった新しいテーマを設定している。

これらのことから、日本文教出版が良い。

村田委員：人権教育の視点から見ると、本文で扱っている内容について差異はないが、東京書籍は、コラムにおいて「解放令」から水平社へというテーマでより深く部落差別に関する内容を掘り下げている。また、「女性コラム」において、それぞれの時代の女性の姿を通して現代社会の課題を考えさせる工夫が見られる。さらに、「東日本大震災」から、「歴史の中の大震災」、「人類の歴史とエネルギー」といった「防災・安全」、「環境・エネルギー」分野にも踏み込んだ学習内容になっている。

以上のような点から、東京書籍が良い。

山本委員：どの教科書も使用上の便宜や編集上の工夫においては、大きな差はないが、その中で、東京書籍では、学習の進め方の手順が示されており、話し合いによる言語活動の充実を図るための工夫がなされている。また、学習のまとめ方についても、図、表をはじめ、ディスカッション、新聞作成、年表づくり、プレゼンソフトの使用など様々な方法が示されている点が学習者の側から見ると非常に使いやすい。
総合的に見て東京書籍が良いと考える。

村田委員：確かに、学習者の側から考えると、東京書籍の方が細かな配慮があり使いやすいと思う。

中田教育長：飯島委員はいかがか。

飯島委員：それぞれの時代の国際関係や文化交流については、東京書籍、日本文教出版ともに詳しくページを割いている。現代においても、国際社会における我が国の役割について、領土問題等にも踏み込んだ記述となっている。
東京書籍は、「私たち歴史探検隊」などで「今」から「歴史」へのアプローチを載せているのが効果的であり、東京書籍の教科書が優れているという点に異論はない。

中田教育長：それでは、社会（歴史的分野）では、東京書籍を採択することに異議はないか。

（異議なし）

審議結果 【東京書籍を採択】

【 社会（公民的分野） 】

中田教育長：社会（公民的分野）の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の7社である。意見をいただきたい。

飯島委員：各社とも、それぞれに学習上の工夫を凝らした題材や手法を取り入れた構成になっているが、総合的に見て、東京書籍が良い。
特に東京書籍は、学習への導入、学習のまとめ、課題学習への取組を生徒に丁寧に提示しており、学習活動の多様性を確保しつつ授業を構築していく手がかりとして有効である。また、「無形文化遺産」「ユニバーサルデザイン」などの時事的な項目や新しい言葉などを一覧表や写真で丁寧に説明している点も良い。さらに、人権の尊重について「共生社会」に視点をおいた記述になっているのも良く、領土をめぐる問題に関して、現状について詳しく触れているのも良い。

村田委員：公民分野の学習において重要な点の一つに「現在及び将来をどのように生きるのか」を自ら考えることが挙げられる。その点で帝国書院は、導入部の「自分史年表」や「対立と合意、効率と公正」においてロールプ

レイの手法を導入するなど、「自ら考え、行動する」視点で構成されている点が良い。地方自治の分野においても、自分が住むまちづくりを考えさせるなど同様の視点がみられる。また、自分の考えをまとめるために必要な他の意見を整理する方法を、①KJ法、②ツリースタイル、③フィッシュボーンスタイルの3つで紹介し解説しているのも他社に見られない点で良い。

日本文教出版の「ライフプランを考える」、「年金シミュレーション」なども自ら考えさせる教材としてはおもしろいが、総合的に考えると帝国書院が良いと考える。

山本委員：確かに、村田委員の教材についての意見は大切な部分である。ただ、学習者の視点から見ると、東京書籍は、ロゴマーク等を使い内容のポイントや学習のまとめを分かりやすく示しており、学習内容を基にところどころで「対立と合意」、「効率と公正」の見方や考え方を活用したコラムを導入している点なども優れていると感じる。

中田教育長：これまでのところ、東京書籍と帝国書院の2社を押す意見があるが、もう少し意見をいただきたい。

飯島委員：選定資料を見ると、教材、資料等の分量では、資料、写真とも東京書籍の方が充実している。特に写真、挿絵の数では100点近い差がある。「アニマル大陸」のトピックのように、フィクションに極めて現実的で複雑な論点をからめて、難しいと思わずに生徒が親しめるよう工夫しているところも見取れる。

村田委員：教科書は生徒にとっては最も身近にある学習教材であり、その点で、山本委員が言われるように学習する側の視点から見れば、東京書籍が優れている。

山本委員：両社とも、学習内容を「持続可能な社会の形成」につなげる課題では、レポート作成の手順を分かりやすく示し、その効果を発揮しやすいように工夫されている点が良い。学習内容を現在及び将来の生き方に生かすことは、村田委員が言われたように、社会科の学習にとって最も大切な視点である。今回の改定では、各社とも取り扱う題材や学習方法等が以前に比べ非常に多種多様であり、どの教科書も充実した内容である。その中で、東京書籍が、内容構成、提示方法、学習者の使いやすさの点で、やはり優れていると考える。

中田教育長：それでは、社会（公民的分野）では、東京書籍を採択することに異議はないか。

（異議なし）

審議結果 【東京書籍を採択】

【 地図 】

中田教育長：地図の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、帝国書院の2社である。意見をいただきたい。

飯島委員：どちらも、巻頭ページで世界の国々を大観できるように全図で示している。

帝国書院は、巻頭に「地域の特色をとらえるポイント」や「地形図の読み取り」があり、これから学習を始める生徒には地図をどのように見たら良いのかが分かりやすい。

東京書籍は、基本資料やテーマ資料などの読み取り方を丁寧に解説している。色彩的には目に優しい色遣いである。

山本委員：東京書籍は、多くの吹き出しを入れより発展的な学習ができるように工夫されている。

帝国書院では、「やってみよう」、「地図を見る目」の欄で学習課題を示している点が良い。

村田委員：地図の色調は大事である。資料や図が中心となる教科書なので、帝国書院の色調の方がはっきりしていて良いのではないか。

中田教育長：飯島委員はどうか。

飯島委員：先ほど、東京書籍は色彩的に目に優しいと言ったが、見やすさは帝国書院が良い。先ほど山本委員が言われたように、教科書としての地図なので、地図の使い方や課題に合わせた調べ方を示しているところが、帝国書院の良いところである。また、どちらも歴史上有名な場所を明記しているが、西暦も併記してあり、歴史との関連性が分かりやすい。さらに、日本列島全図を折り込みページで掲載しており、大きくて見やすい。

中田教育長：村田委員と飯島委員の意見から、帝国書院が良いということであるが、山本委員はどうか。

山本委員：私も帝国書院が良いと考える。東京書籍も見やすい構成で発展的な学習内容の工夫など良い点も挙げられるが、資料の豊富さや全体的な構成の良さ、地図の見やすさなど、総合的に見て帝国書院が良い。

中田教育長：それでは、地図では、帝国書院を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【帝国書院を採択】

【 数学 】

中田教育長：数学の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、数研出版、日本文教出版の7社である。意見をいただきたい。

村田委員：各社とも工夫があり絞りにくいですが、中でも数研出版、日本文教出版、啓林館が良い。

数研出版は、重要語句には太字のゴシック体を使用し、大切な事項は色

網掛けされていて見やすい。

日本文教出版では、重要事項のまとめや、用語の定義、定理の部分に色網掛けされていて分かりやすい。

啓林館は文字の大きさや書体、色遣いが見やすい。

飯島委員：各社とも検定をクリアするだけでなく、それ以上の工夫を打ち出しているが、強いて言うなら、数研出版、日本文教出版、東京書籍が良い。各社、話合いや説明活動ができる課題を設定するなど、言語活動の充実を図るための工夫がされている。

数研出版は、「問」でも穴埋めになっているものがあり、生徒が取り組みやすいよう工夫されている。

東京書籍は理解を確認したあとで問題演習に取り組めるように工夫されている。

日本文教出版は、「例」、「問」について段階を追って提示している。

山本委員：東京書籍以外は、3年生の2次方程式を因数分解、平方根、解の公式の順で扱っている。

また、日本文教出版や数研出版は、章の最初で身近な話題や課題を取り上げ、興味を持って学習に入れるような工夫が見られる。

懇話会の意見にもあるように、数研出版は巻末の問題を多くしていることが特長である。

おうぎ形の計量については、大日本図書、学校図書、日本文教出版は「空間図形」の中で取り扱われ、東京書籍、教育出版、啓林館、数研出版は「平面図形」で取り扱われている。「おうぎ形」という言葉は「平面図形」で出てきているので、計量についても「平面図形」で扱うのが自然だと感じる。

私としては、啓林館、東京書籍、数研出版が良いのではないかと考える。

村田委員：飯島委員と山本委員の話を聞きながら、数研出版か日本文教出版が良いと感じた。

数研出版は、定義や語句の説明がとても丁寧である。また、例題の脚注には吹き出しを用い、分かりやすく説明をしている。

日本文教出版は、初めて出てきた用語を使った具体例を「表現の例」として示しているところは、生徒が理解しやすいと考える。

数研出版は、個に応じた指導の工夫として、各章末に「問題B」や「発展」を設けて発展的な内容を取り入れることにより、生徒は自分に応じた問題を段階を追って選択できるので効果的である。

飯島委員：他教科への発展ということで考えると、数研出版では、各章扉で身近な話題に触れられるように工夫されている。また、資料の活用として地球温暖化や少子高齢化、環境問題、福祉の問題、現代の重要なトピックとの関連というものが出ている点が評価できる。資料の分析は架空のサン

プルではなく、現実を用いる方がリアリティがある。数値の表から折れ線グラフやヒストグラムを作るわけだが、現実を数値化し視覚化するという一連の作業として取り組むとモチベーションが上がる。地球温暖化や少子高齢化という社会的課題を考察するために数学が用いられるのだということを意識させることは「数学は社会生活と関わりがない」と思っている生徒たちにとっては価値ある動機付けとなろう。

中田教育長：いままでの意見を総合して見ると、数研出版はすべての委員が良いとしている。

それでは、数学では、数研出版を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【数研出版を採択】

【 理科 】

中田教育長：理科の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館の5社である。意見をいただきたい。

村田委員：各社それぞれに特色があり、絞るのが難しい。

東京書籍は、「科学でGO」や「ニッポンの科学」で生活や環境に役立つ例や日本が世界に誇る科学技術の話題に関する資料を掲載している。

学校図書や教育出版も、職業紹介や理科に興味を持たせるような内容が掲載されている。

大日本図書は、自然環境の保全に関する箇所には環境マークを付けており、啓林館でも、「地域・環境資料集」を設け、全国各地の多様な自然や環境問題に関する取組を紹介している。

山本委員：理科は、特に生活に役立つ教科という視点で考えたい。また、習得と活用という視点も大事にしたい。

東京書籍は、基礎基本の定着を図るため、「例題→練習→確認→チェック→学習内容の整理→確かめと応用」というスモールステップで既習事項の確認ができるようにしている。

啓林館は、単元末にある「学習のまとめ」や「用語の確認」では、付属のシートを使うことで文字を隠し、重要事項の確認に利用できるようにしているところが、自分で復習するのに良い。また、「ぶれいく Time」で日常生活と関連付けたり、「ひろがる世界」で科学への関心を高めたりする工夫がされている点も良い。

飯島委員：どの教科書においても、言語活動の充実を図るため、発表する機会を設定したりレポートにより科学的に表現したりする工夫がある。その中でも、啓林館か東京書籍が良いのではないかと考える。

啓林館では、科学的な思考力、表現力の育成を図る工夫として、別冊「マイノート」の「スキルアップ」でグラフの書き方や作図のスキル向上を

図っている点が使いやすくて良い。正しく物事を見るためにはこのようなスキルは重要である。

東京書籍では、科学的な思考力、表現力の育成を図る工夫として、自由研究のテーマ例と研究の手順を示しており、生徒が自ら科学的考察を行うモチベーションを高めるのに役立つ。

中田教育長：東京書籍と啓林館が良いという意見が多いが、他に意見はないか。

山本委員：東京書籍は、「発展」の中で高等学校につながる内容を紹介し、より高度な知識に興味をもたせる配慮をしているのが良い。

啓林館は、「はたらく人に聞いてみよう」というマークを付けて、理科の学習が身の回りでどのように生かされているかを意識付けたり、キャリア教育につなげたりするような工夫がある。

どちらも今大事にされている内容である。難しいが、どちらかというところ、啓林館が良いのではないか。

村田委員：理科では、観察と実験が大きな観点になるが、どの教科書も「目的」を分かりやすくする工夫がされている。

中でも啓林館では、9種類の安全マークなどを使い、さらに注意点を朱書きにして実験、観察時の安全への対応を図っているところが優れている。また、「地域・環境資料集」を利用し各地域における特徴などに触れることができるように工夫されている。さらに、書き込みのできる別冊「マイノート」は基本的内容の定着や既習事項の確認、グラフの作成、作図技能の習得にはかなり有効である。

そのような工夫があることから、啓林館がやや良いと感じる。

中田教育長：これまでの意見を総合して見ると、啓林館が良いという意見が多い。

それでは、理科では、啓林館を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【啓林館を採択】

【音楽（一般）】

中田教育長：音楽（一般）の教科書の採択を行う。教科書は、教育出版、教育芸術社の2社である。意見をいただきたい。

山本委員：2社とも、新しい曲やなじみの深い曲など、生徒が興味関心をもって楽しみながら学習に取り組めるように工夫されていて良いが、どちらかといえば教育芸術社が良い。

教育芸術社では、前半に表現教材、次に鑑賞教材を配置し、双方を関連させながら指導できるように工夫されている。また、幅広い分野から教材を取り上げ、「能」、「歌舞伎」など舞台に関わる資料を示して文化的な側面からも総合的に捉えられるようにしているところが良い。

村田委員：私も山本委員と同じく教育芸術社が良い。

2社とも、巻頭、巻末でも写真、資料を使って、生徒の興味関心を高める工夫がされているが、特に教育芸術社は、音符やリズムを利用したゲームが取り上げられ、リズムの基礎、基本が楽しみながら身に付くように工夫されているところが良い。

飯島委員：全体的に教育芸術社が良い。

調査研究報告書にもあるように、教育出版は、冒頭グラビアで現役の演奏者の言葉や作曲者の紹介を載せており、人が音楽と関わっているということをより生徒たちに分かりやすく感じさせるところに魅力がある。先ほど山本委員も言っていたように、幅広い分野から教材を取り上げ、「能」、「歌舞伎」などで舞台に関わる資料を示して日本文化が実は音楽と関わっているという取り上げ方が良い。言語活動の充実を図ることについては、「ここが分かれば Grade up」で、具体的に話し合うポイントを示しながら、生徒同士で話し合う活動を提示しているところが良い。

中田教育長：これまでの意見をまとめると、教育芸術社を推薦する意見が多い。

それでは、音楽（一般）では、教育芸術社を採択することに異議はないか。

（異議なし）

審議結果 【教育芸術社を採択】

【 音楽（器楽合奏） 】

中田教育長：音楽（器楽合奏）の教科書の採択を行う。教科書は、教育出版、教育芸術社の2社である。意見をいただきたい。

飯島委員：教育芸術社では、言語活動の充実を図る工夫として、「アンサンブルセミナー」の「ここが分かれば Grade up」で学習の目標やポイントを吹き出し等で分かりやすく示している。また、合奏をする中で感じたことや考えたことを言葉にして発表できるようにしているところが評価できる。どちらの教科書も、扱っている楽器の種類やその演奏方法などについて写真等で分かりやすく説明し、巻頭ページでも楽器への興味関心がもてるように工夫されている。

村田委員：教育芸術社では、活動上生じる問題点を「Q&A」という簡単な表現で解説されている。

教育出版では、巻末にギターとキーボードのコード表が付いているなどいろいろ工夫されているが、総合的に考えて教育芸術社の方が良い。

山本委員：器楽の学習活動をより充実したものにできるよう、教育芸術社では「鑑賞」と関連させた教材を取り上げていて、生徒が意欲的に取り組める工夫がされているので、教育芸術社が良いのではないかと。

飯島委員：音楽（一般）を使って学習する内容と（器楽合奏）の学習内容とは当然大きく関わってくるものだと考えるので、教育芸術社が良い。

村田委員：教育芸術社の和楽器に親しむ工夫、創作活動を関連させて学習できるような工夫の点を見ても、教育芸術社が良いのではないか。

中田教育長：それでは、音楽（器楽合奏）では、教育芸術社を採択することに異議はないか。

（異議なし）

審議結果 【教育芸術社を採択】

【 美術 】

中田教育長：美術の教科書の採択を行う。教科書は、開隆堂出版、光村図書出版、日本文教出版の3社である。意見をいただきたい。

村田委員：教科書を見てまず目に付くことは、開隆堂出版と光村図書出版がA4判であるのに対し、日本文教出版がそれより幅広いワイド判であり、全3分冊になっていることである。3分冊である分、資料や作品写真がダイナミックで印象強くなっている。

各社とも原寸大の図版を掲載しているが、日本文教出版の図版がより充実している。また、日本文教出版は、鑑賞資料として浮世絵を和紙に印刷して質感を表す工夫をしていてとても効果的である。

飯島委員：3社ともに、現行の学習指導要領に示された言語活動の充実や鑑賞の充実を進める工夫として、「問いかけ」や「作者の言葉」などを取り入れている。相対的に見て、日本文教出版と光村図書出版が良いのではないか。

光村図書出版は、詩や作者の言葉が充実していてそこから浮かぶイメージを大切にしており、生徒が美術作品の理解を深めるための学習に効果的である。

日本文教出版と光村図書出版は、道徳の学習と関連する内容をページ下に示している。道徳と美術の関連を意識させる工夫は大変有効である。

山本委員：掲載している写真等の資料の数は発行者により特徴があり、県の選定資料を見ると光村図書出版は美術作品を最も多く掲載している。近年鑑賞の学習の充実が求められている中で美術作品が豊富であることは重要な要素だと考えられる。開隆堂出版は生徒作品を最も多く掲載しているが、題材数が他社に比べて少ないのが気になる。やはり豊富な題材の中から生徒の状況に応じて選べることが大切である。

総合的に見て光村図書出版が良いのではないか。

中田教育長：光村図書出版と日本文教出版が良いという意見だが、そのほかに意見はあるか。

飯島委員：どちらもICTを活用した題材を効果的に取り入れているが、光村図書出版の方がビデオ、カメラ、タブレット端末を活用した題材などを充実させている。

また、教科の調査報告書にあるように、光村図書出版は全2冊にまとめているが、その方が生徒も指導者も題材を選択しやすいのではないか。

中田教育長：飯島委員の意見について、村田委員はいかがか。

村田委員：日本文教出版は、3分冊となっている分、掲載している資料や題材数に余裕があるのは良いと思うが、そのような見方もあるのなら現場の先生が使いやすい方が良いと思う。

光村図書出版は、題材数や大事にしたい鑑賞資料の数も同じくらい充実しているので、光村図書出版で良いと思う。

中田教育長：それでは、美術では、光村図書出版を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【光村図書出版を採択】

【 保健体育 】

中田教育長：保健体育の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、大日本図書、大修館書店、学研教育みらいの4社である。意見をいただきたい。

村田委員：各社とも巻頭のページ等で生徒の興味や関心を引き出すような写真や記事を多数掲載したり、理解を高めるためにイラストや配色を工夫したりしている。

東京書籍と学研教育みらいは、章末に問題を設定して用語の確認や基礎の習得等が行えるようになっている。

特に、各項目の中に「エクササイズ」として、考えたり、話し合ったり、調べたり、振り返ったりしながら学習が進められるようにしている学研みらいが良い。

飯島委員：大修館書店が良い。

大修館書店は、「コラム・事例コーナー」を設け、内容に関する話題や健康課題を掲載している。また、「トピックス」、「Q&A」で項目に関連する話題や身近な疑問への回答が掲載されている。

山本委員：私も大修館書店が良いと考える。

4社とも各章单元ごとに課題を提示して、グラフ、表、図などをうまく活用して、生徒の学習活動に役立てることができる点で評価できる。

大修館書店は、各項目の最後に考える、話し合う、調べる、まとめる、発表するなどの作業課題「チャレンジ」を設けて、生徒の主体的な学習に配慮されているところが良い。

中田教育長：学研教育みらいと大修館書店で意見が分かれたようだが、村田委員はいかがか。

村田委員：懇話会の意見にも出ていたように、情報教育の充実を図るための工夫としていろいろな視点で配慮されているが、教材、資料の分量は大修館書店が多く分かりやすい。山本委員、飯島委員が推薦されている大修館書

店を採択することに異論はない。

中田教育長：それでは、保健体育では、大修館書店を採択することに異議はないか。
(異議なし)

審議結果 【大修館書店を採択】

【 技術家庭（技術分野） 】

中田教育長：それでは技術家庭（技術分野）の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、教育図書、開隆堂出版の3社である。意見をいただきたい。

村田委員：東京書籍は、前回の教科書と比べ大幅に刷新されており、環境的、経済的、社会的な側面から考えるための資料や活動が多くなった。調査報告書にもあるように、デジタル教材も充実しており、今日的な課題に対応した教材になっている。

開隆堂出版は、大幅な内容の変更は行われていないが、情報モラルについての内容が充実しており、技術の発達や伝統文化についても触れられている。また、図表などのレイアウトも分かりやすい。

東京書籍か開隆堂出版が良いのではないか。

飯島委員：文章の分かりやすさ、レイアウトなどの見た目の分かりやすさから、教育図書か開隆堂出版が良い。

特に、開隆堂出版は、注釈及び用語説明の数が多く、生徒は理解しやすい。

山本委員：開隆堂出版では、言語活動の充実を図るため、「話し合ってみよう」で意見交流や発表をする活動を盛り込む工夫が見られる。また、学習課題が明記されており、図表、イラスト、写真が分かりやすく配置されていて、本文も見やすいという点から、開隆堂出版が良い。

中田教育長：開隆堂出版が良いという意見が出たが、村田委員はどうか。

村田委員：開隆堂出版は、県の選定資料にもあるとおり、豆知識を掲載して関係する項目や用語を説明していて、興味関心を引く工夫がされているところが良い。開隆堂出版を採択することに異論はない。

中田教育長：山本委員はどうか。

山本委員：私も、総合的に見て開隆堂出版が良いと考える。

中田教育長：それでは、技術家庭（技術分野）では、開隆堂出版を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【開隆堂出版を採択】

【 技術家庭（家庭分野） 】

中田教育長：技術家庭（家庭分野）の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、教育図書、開隆堂出版の3社である。意見をいただきたい。

飯島委員：生駒市が環境教育に力を入れている自治体であるという視点から、「持続可能な社会を目指して」を設けている各章に「持続可能な社会をつくる」を設定し家庭生活と環境問題をまとめている東京書籍か開隆堂出版が良い。

また、東京書籍は、県の選定資料にあるように、他教科や道徳との関連を示している点も評価できる。

村田委員：東京書籍が全体的に良い。

サイズがA B判で、表や図などをゆとりのある紙面で見られることと、机の上で落ち着いて開くことができるという点が良い。

内容については、3社とも人権を大切にしたい題材を取り入れるなど、よく考えられているし、実習についても分かりやすく解説されている。

挿絵や文字配列などのレイアウトは、東京書籍が一番バランスがよく分かりやすかった。

山本委員：私も東京書籍が良いと考える。

技術家庭として、技術分野と家庭分野とで違う出版社という点に問題がないようなら、東京書籍は、各章における学習項目や重要項目の整理の仕方が分かりやすく、「調べてみよう」、「やってみよう」という課題によりワークシート例やレポート例を充実させており、表現力を高められると感じた。

中田教育長：3人の意見で東京書籍と開隆堂出版の良さが挙げられる中、共通しているのは、東京書籍が総合的に良いとした声のようだが、ほかに意見はあるか。

飯島委員：東京書籍が良い。「日本各地の郷土料理」を取り上げて生徒の興味を引く点が、学習のきっかけにするのに有効である。

山本委員：私も、注釈及び用語説明の詳しさ等を総合的に判断して、東京書籍が良いと考える。

中田教育長：それでは、技術家庭（家庭分野）では、東京書籍を採択することに異議はないか。

（異議なし）

審議結果 【東京書籍を採択】

【 英語 】

中田教育長：英語の教科書の採択を行う。教科書は、東京書籍、開隆堂出版、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版の6社である。意見をいただきたい。

山本委員：どの出版社も、小学校での外国語活動からのスムーズな移行のための工夫がされていると感じた。

また、各社とも、単元のレイアウトや単元末ごとに生徒が力を伸ばす場

面が設けられている中で、三省堂と東京書籍が、レイアウトのバランスが良いと感じた。

三省堂は本文の字体が見やすく、挿絵と文章のバランスも良い。

東京書籍は、行間等が広く書き込みができるスペースがあり、使いやすいと感じた。

すべての教科書で、言語活動の充実を図るための工夫がされているが、東京書籍では、既習事項を使って発表等の自己表現活動を行う構成になっている点や、開隆堂出版では Power-up のコーナーで、1年では書く、読むなどの独立した活動を、2、3年では聞く、話す等の複数の活動を設定している点が興味深い。

村田委員：三省堂が良い。

三省堂は、本文型の説明が丁寧で分かりやすく、巻末の付録も自主学習で活用できそうである。また、3年間で学習するたくさんの単語の中でも大事な単語については明確に表示してあり、抑えるポイントが分かりやすい。教育出版も、別冊で単語や基本文を自分で活用できるように工夫してあるが、使いやすさでは三省堂が良い。また三省堂では、「GET」での繰り返し練習により習得した基礎的な内容を、「USE」で活用し定着を図る構成になっていて、学習効果を高める工夫が見られる。

飯島委員：どの出版者も世界に目を向けたグローバルな題材を選び、分かりやすく工夫されていると感じた。また、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を総合的に育成することに意識をおいて、実際の言語の使用場面や言語の働きに考慮したものを取り上げており、1つを選ぶ決め手が見付けられなかった。盛りだくさんな内容になっている中、それをできるだけ分かりやすくシンプルにしているのは、三省堂か東京書籍である。

中田教育長：今までの話から、三省堂、東京書籍の教科書が良いという意見が多く出ているがどうか。

山本委員：三省堂では、本文の下に内容についての質問を英語で記載し、本課の扉のページには、日本語で学習の目当てを示している。このように、学習効果を高める工夫がされているところが良いのではないか。

飯島委員：懇話会の意見にもあるように、3年間で学習する語数が多いという点から考えても、三省堂が良いだろう。

中田教育長：それでは、英語では、三省堂を採択することに異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【三省堂を採択】

【特別支援学級使用教科書】

・特別支援学級使用教科書の採択について、教育指導課、吉村課長から説明

中田教育長：先程採択した教科書を、特別支援学級においても使用することが望ましいという考え方である。特別支援学級で使用する教科書については、ただ今事務局から説明を受けたとおり、生徒が在籍する当該学年の種目ごとに採択された教科書を使用することに、異議はないか。

(異議なし)

審議結果 【当該学年の種目ごとに採択された教科書を使用】

中田教育長：以上をもって、15種目の教科書と特別支援学級が使用する教科書の採択についての審議を終了する。

選定懇話会の皆様、調査部会の先生方には、長期にわたり研究を重ね、貴重なご意見や報告書を作成していただいた。また、担当部署においては、教科書センターを開設し、広く市民の意見と教科書採択に必要な情報を収集していただいた。この場を借り、感謝を申し上げる。

しかしながら、採択した教科書がどのような教科書であれ、子どもたちにとっての最大の教育環境は現場の先生方である。子どもたちが健やかに育つためには、現場の先生方の熱意と努力と研究にお任せするしかないのが現状である。現場の先生方には、子どもたちの学習に、本日採択した教科書を是非生かしていただき、充実した学習を進めていただくよう、お願い申し上げる。

○閉会宣告

午前11時40分閉会